

ナマステ



特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌

147号

2022年8月31日発行号

『こすげ冒険学校』を開催しました！！

参加者 15 名を迎え、6 泊 7 日の夏のこすげ冒険学校を開催しました。今年度は過去最高クラスの天気
に恵まれ、毎日川遊びをして過ごすことができました。



＜参加者からの感想＞

僕の1番の思い出は沢登りができたことです！
2時間かけて第二えんていまで行けたことが嬉しかったです。

いろんな工作も体験できて、たくさん作品を持ち帰りました！

キャンドルを忘れたことは後悔…

いろいろなことができ、さらに「やりたい！」ということや企画をしてくれて天候次第で実行してくれたことが嬉しかったです！

ありがとうございました！ (寺井健人くん 小4)

小菅村は最高だ！

一瞬の7日間、思いだすこと。

小集団・ショイコ・川遊び・沢登り・滝に打たれる・夜のカジカツき・まき割り・ハンモック・ブランコ・人狼・炭焼き・豚丼とカレー・ミルクココア・ドーナツ作り・水中すもう・キャップ投げ野球・カエル・虫とり・五右衛門風呂とドラム缶風呂・新しいいすど机・友達とスタッフ・小菅の湯

また行きたい！！

(森下守くん 小6)

私は今回のキャンプで、川遊びや工作、炭焼きの手伝いやお風呂わかし、キャンプ場の外でナイトハイクや滝を見に行ったり星を見に行ったり、色々なことを体験しました。中でも特に面白かったのは、水をかけ合った水遊びと工作です。

水遊びでは、スタッフさんと勝負をしたり、どうやったら強く水をかけられるか村長さんに教わったりしました。教わった通り、水を入れたバケツをふりおろすようにかけたら、スタッフさんが「痛い!」と叫んだので、うまくいったと思ってうれしくなりました。工作では、竹でとうろうを作ったり紙ねんどと卵のカラに色を塗ったもので猫を作ったりしました。

他にも、キャンプ場で食べたご飯はすごくおいしかったです！来年も再来年も来たいです！！（関仁葉さん 小4）

「あっ見つけた!」

僕がずっと楽しみにしていたカジカつきで水に入った瞬間アイツと目があった。

僕はモリでグサッと刺した。

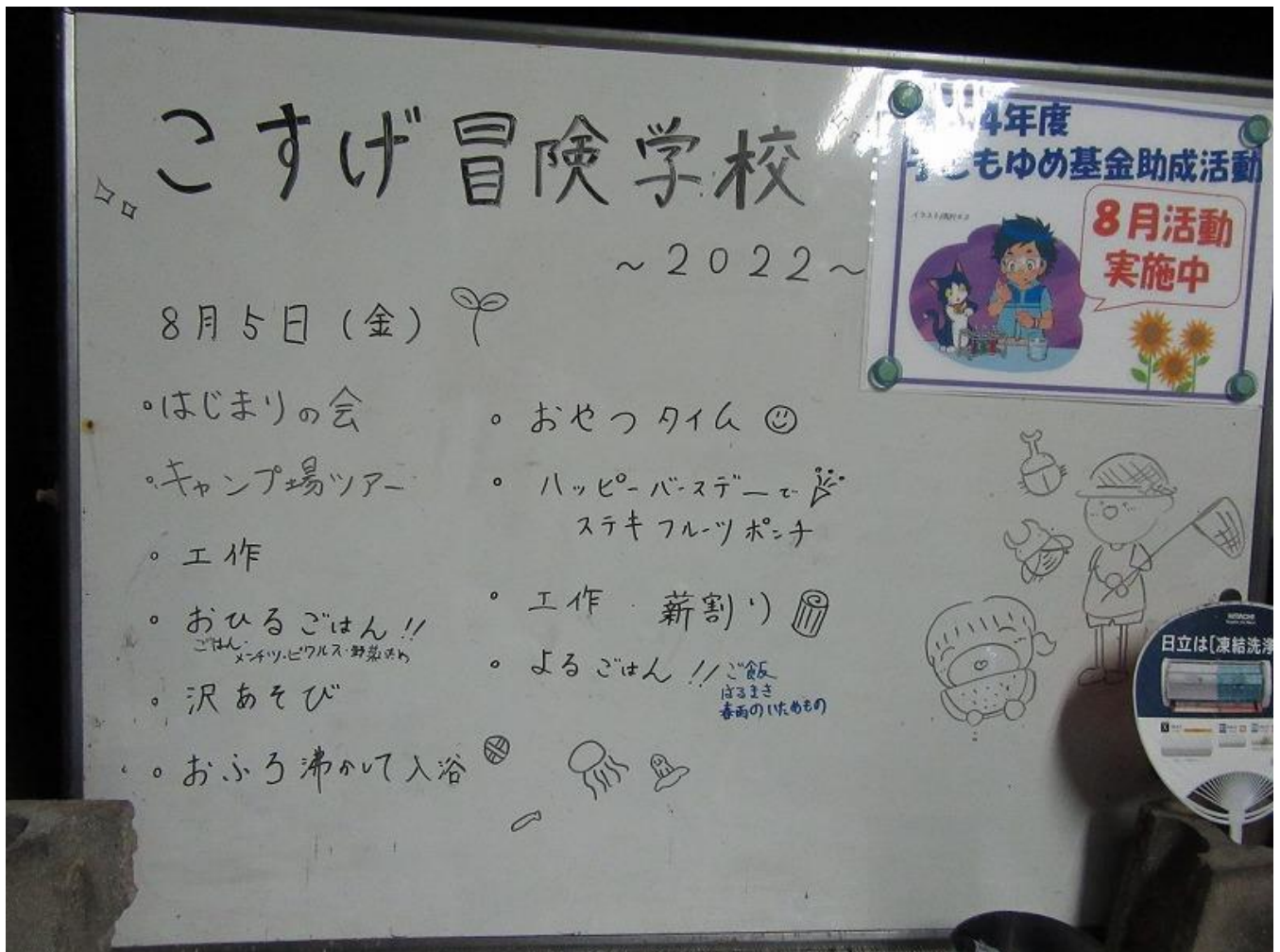
気がついたらあっという間に7匹も捕まえていた。

みんなからカジカを探すのは難しいといわれていたが普通に見つけられた。カジカは味噌が身体についたような色つきでムツゴロウの体をしていて、正面から見るとカエルのような顔。目がポコッと出ていた。図鑑でみていたのとだいぶ違って驚いた。さわったヌメとした感覚が忘れられない。またみんなと冒険学校で遊びたいです。

（井上敬生くん 小4）

魚を見たり、さわのぼりでとびこみをしたりいろいろな活動するのがとても楽しかったです。

ご飯やおやつやピザがおいしかったです。（安倍健くん 小4）



<スタッフの感想>

福島亜依さん（東京学芸大学 1 回生）

全ての時間が楽しかったです。純粋に楽しいという気持ちが溢れ出て、帰ってから思い出話が止まりませんでした。

私は主に工作班として携わらせていただきましたが、沢山の子どもたちが粘土や竹、金属などの素材に触れ合っ楽しんで、思うがままに工作している姿を見てとても嬉しくなりました。それぞれのこだわりを持って作った作品はどれも素晴らしかったです。子供たちと、ここはどうしたら上手くいくか、もっとかっこよくなるかを一緒になって考えながら楽しく工作することが出来ました。

ナイトハイクもほぼフル参加でき、小菅の様々な場所を子供たちと探検できたのも良い思い出になりました。冬のヘリポートからの星も見てみたいです。

7月のキャンプももちろん楽しかったですが、今回のキャンプでは更に沢山の人たちとお話したり関わり合いながら過ごすことができたこと、本当に本当に楽しかったです!! ありがとうございます



森岡小晴さん（東京学芸大学 3 回生）

今回も、スタッフでありながら、私自身が子供たちと一緒に新たなことを探しては全力で挑戦していく学びの多い本当に楽しい時間でした。周りに広がる 木々、植物、川といった自然、竹、糸、ノコギリなど、工作道具が豊富に揃っている環境で、何ができるかなと考え試行錯誤する楽しさ、普段なら時間の経ちを気にしながら過ごす1日を、何も気にせず自由に使える喜び。都内の小学校を見ているからこそ思う、これらのことの難しさと贅沢さ。この環境を作り上げた、黒ちゃん、しずくさん、はるちゃん、鈴木さん、みどりさん、みややんさん…沢山の小菅における先輩の方から、この環境を作るにあたっての経緯や、大切にしていることをもっとお話をお聞きしたいと思いました。

（既に沢山聞かせてもらっていますが!）また、私もこの空間をこれからも継承していきたいし、私が教員になった時にも大切にしたいし、子供に是非感じてほしいと、改めて思った冒険学校でした。



豊島大史さん（東京学芸大学 2 回生）

今回、冒険学校に参加して、子どもとの関わり方と新たな課題に気づけたキャンプになりました。ゴールデンウィークが初めてキャンプでしたが、その時はどこかお客さまのような気分でした。仕事や子どもたちとの関わり方など、どうしたら良いのか分からず、戸惑っていた記憶があります。そこで悔しさを糧にしながら、農学校や校外活動を経て、冒険学校に臨みました。子どもたちと仲良くなるためには、子どもたちの話すことに興味を持つことだと思いました。子ども一人ひとり好きなことや関心のある分野があり、私はそれを聞くことがとても好きです。今回は、昆虫や星座、国、結晶、ライフハックまで、子どもたちからたくさん学びました。私にとって初耳なことばかりで、同じキャンプ場なのに、毎回新しさを感じる事ができました。子ども同士で協力し合ってる場面もあり、すごく感動しました。そのような場面が増やせるように、今後のキャンプで工夫していきたいです。

小園美優さん（東京学芸大学 4 回生）

笛を吹いてみた経験が記憶に残っている。簡単そうに見えて技術が必要なことに気づき、世界が広がった感じがした。冒険学校は、それぞれが好きにやっているからこそ、それぞれの世界を少し覗けたような気がした。そういう幅の広さも、冒険学校の大きな魅力だと感じている。



2022 年度こすげ冒険学校後記

こすげ冒険学校村長 栗永法（しずくながのり）

今年の冒険学校は何と恵まれていただろうかと思う。活動内容の充実ぶりについては参加した子どもたちや学生スタッフの感想からも分かる通りだ。ここでは別の観点で報告できればと考えている。

まずは子どもたちの様子についてお伝えしたい。今年も新たなメンバーが加わったがどの子も非常に好奇心旺盛で、初めて過ごすキャンプ場で出会うあらゆる物事に興味を持ち自分で試してみなければ気が済まない面々が集っていた。良い意味で“ギラギラ”していた。初日、新メンバーだけの様子を見ているとかなりハイペースな活動で、このままいくと一週間もたないのではないかと心配になる程だった。

しかしもう一方で、冒険学校経験者が何人も参加していて冒険学校の生活リズムをリードしてくれていた。久しぶりのフィールドに身を置き、自然いっぱいの空気を懐かしむように味わい、キャンプ場の様子をたしかめながら、ゆったりと活動していた。これからのキャンプ生活をじっくり味わっていかうとでもいうような余裕のある雰囲気を感じられた。この経験者たちの行動は理にあっていて経験に裏打ちされた根拠があるため新メンバーたちも次第に真似たり後について回るようになっていたりして、自然にキャンプの生活リズムや雰囲気が出来上がっていった。結果、子どもたち同士の関係も日を追うごとにバランスよく深まっていった。そして、子どもたちはその関係性の中で次から次へと楽しみや喜びを見つけ味わっていた。

次に学生スタッフについてお伝えしたい。いまだ続くコロナ禍にあってもそれぞれが備え、想いをもって参加してくれた。

今年は7月初旬に東京学芸大学『サークルちえのわ』の学生を中心に他大の学生も小菅村に集まり、事前スタッフ研修会を行うことができた。沢遊びや沢登りをしつつフィールド探索をして土地勘を養ったり、薪割りや五右衛門・ドラム缶風呂焚き等の技術を身に付けたり、このフィールド内で考えられる危険の予測や対策といった安全管理についても学ぶ機会を持つことができた。学生同士の信頼関係も深まり、互いに安心して支え合うことのできる状態で冒険学校本番を迎えることが出来たということが何よりも心強かった。このような積み重ねがあったからこそ学生が子どもたちとの関係を豊かにつくっていくことが出来たと思う。さらに事前準備や後日帰り（事後片付け）に参加してくれた人が何人もいたことは本当に嬉しかった。怒涛のようなキャンプ期間を過ごした後の静けさを充実感と共に味わう…という格別の時間を過ごすことが出来たことも嬉しかった。今年の冒険学校も学生たちの情熱や人知れない助力に支えられ無事に実施することが出来たと感じる。感謝したい。

「冒険学校 まふゆのキャンプ」 12.24~26(2泊3日)

毎年恒例の「冒険学校まふゆのキャンプ」を体験して、暖かいお正月を迎えませんか？

小菅村ではお正月の準備がもうはじまる頃です。日中は、村内を自由に動き、村の中でもちょっと面白いところに行きましょう。焚火・薪割り・ナイトハイク・星空観察・バードウォッチング・滝探検・・・その場で思いつく限り、いっぱい遊んで、食べて、寝る。そんなキャンプです。個性あふれるスタッフがみなさんの参加を待っています！！

日程：12月24日（土）～26日（月）

場所：清水バンガロー（小菅村のいつものキャンプ場）

宿泊：一人用テント・ログハウス・野宿など

対象：小学校3年生～中学校3年生

定員：15名（先着順です）

参加費：会員¥26,000 非会員¥28,000

（奥多摩駅からの交通費・食費・宿泊費・保険代などを含む）

申込み：ハガキ・もしくはE-mailに住所・氏名・年齢（学年）・

性別・電話番号を記入の上、事務局まで参加をお伝えください。



＜国土緑化推進機構 令和4年度「緑と水の森林ファンド」助成事業です＞